

小平市議会定例会 代表質問通告書

質問件名 人口減少時代においても住みたい魅力ある市であるために

質問要旨

小平市は300以上ある多くの公園やグリーンロード、玉川上水、そして今も多く残る農地などを擁する緑の豊かさと、都心から程近く適度な利便性で子育て世代を中心とする流入が続いています。一方で、高齢者人口も増加を続けており、2021年3月に発行された「小平市地域包括ケア推進計画」によれば、2020年4月1日現在、人口約19万5千人に対して、65歳以上の高齢者人口が4万5千人、高齢化率は23.2%となっています。

日本全体の高齢化が進むなかで人口も減少傾向に転じていくとされており、全体の人口が減る以上、居住において選ばれる市区町村と選ばれない市区町村の差は拡大していくと思われ、自治体経営の視点からみても市民のニーズに応えるための環境整備を充実化させていくことは、市として今後ますます重要な課題となります。

令和4年度予算編成に当たっての施政方針にもあったように、2021年、2022年と「本当に住みやすい街大賞」の10位以内に花小金井エリアがランクインし、テレビや新聞等でも小平市が特集されるなど、市が目される機会が増えています。

新市長となって初めての令和4年度(2022年度)予算編成には、市長のこれからのまちづくりへの想いが反映されているものと思っています。

今後どのような点に注力することにより、住みたいと思える魅力ある市にしていけるのか、目指す市の姿や施策の方向性について、以下質問いたします。

1. より魅力ある市になるための特徴ある政策を打ち出していくためには、国や東京都が示す限定的な補助金の活用にとどまらず、市独自のメリハリのある予算配分や財政の健全化を目指す積極的な姿勢が必要であると考えますが、見解を伺います。
2. 小平市に住みたい最大の理由である農地を含めた豊かな緑について、これからどのように保全と創出に向けて取り組んでいきますか。小林新市長として新たに加えたい視点や方針などあればお示しください。
3. 小平市第四次長期総合計画には「子どもを中心に位置付け、子どもの健やかな成長を支援します。」と書かれています。「子育てしやすいまち」として求められる視点として、子どもの遊び場や居場所、保育や学びの場についてもさらに充実化していくことが必要ですが、見解は。
4. 男女共同参画について、令和4年度予算編成に当たっての施政方針では「男性も女性も、子育てをする誰もが力を発揮できる環境づくりにつながる取組として、引き続き、保育・子育て環境の整備を積極的に推進する」とありました。男女共同参画をさらに進めていくために、具体的にどう取り組んでいきますか。
5. とくに公共施設マネジメントにおける複合化計画や公園、駅前広場の開発などにおいて、事業の進行とともに市民からの反対の声が強く挙がる事例が散見されることから、市民側に市や他の市民とともにまちを創っているという実感が持てているのか疑問です。こうした市と市民の関係性の状況や、計画当初のプロセスからの情報共有や役割分担、市民参画の仕組みづくりについて、市長はどのように捉え、取り組んでいきますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和4年2月16日 小平市議会議長 殿

会 派 名 生活者ネットワーク 受付番号【 】-(/)

代表質問議員氏名 山浦 まゆみ 整理番号(通しNo.)… …()